

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

なし

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

山本修一郎・名古屋大学・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

なし

研究課題名:DXにおけるエンタープライズ・アーキテクチャ(EA)の調査研究

研究期間: 2018年 11月 1日 ~ 2019年 11月 30日

概要:(1,000字以内で記述)

以下の(1)~(4)について調査研究を実施した。

(1)DX1におけるEAフレームワークの比較評価

オープングループにおけるDXの取組であるDPBoK(Digital Practitioners Body of Knowledge)などを調査し、TOGAFに基づくデジタルサービスのアジャイル開発・展開モデルなどが提案されていること、既存設備プラントのデジタル変革アーキテクチャを明らかにした。

(2)DX実装プロセスの調査

レガシーシステムのマイクロサービス化事例を調査することにより、ビジネスレイバリティと整合するようにマイクロサービスアーキテクチャを実装する方式が実用化されていることを明らかにした。

(3)事例研究

TOGAFとバランススコアカード(BSC)に基づくDXのためのBSC(DBSC)を考案し、水道情報活用システムのデジタル変革に試行適用することにより、DX戦略マップの有効性を明らかにした。

(4)デジタルイノベーションモデルについての研究

9種のビジネスイノベーションモデルの表記法とEA図式言語 ArchiMate を比較し、ArchiMateの表現能力が最も高いことを明らかにした。

この結果、以下の成果[1]~[9]を発表した。

- [1] 山本修一郎, デジタル変革をどうするか、日本経営協会、オムニマネジメント, No. 12, pp. 2-7, 2019
- [2] 山本修一郎, DX 推進を阻む日本企業の7つの壁、経理情報, 2019, p.1
- [3] 山本修一郎, EAとDX、Web Computer Report, Vol.58, No.12, pp.20-25, 2018
- [4] 山本修一郎, DPBoK、Web Computer Report, Vol.59, No.1, pp.18-25, 2019
- [5] 山本修一郎, デジタル変革と適応型EA、Web Computer Report, Vol.59, No.2, pp.19-27, 2019
- [6] 山本修一郎, EPC産業のデジタル変革、Web Computer Report, Vol.59, No.5, pp.15-21, 2019
- [7] 山本修一郎, デジタル変革に向けた適応型EAフレームの比較、Web Computer Report, Vol.59, No.11, pp.13-23, 2019
- [8] Shuichiro Yamamoto, A Comparative Analysis of Business Model Notations, Journal of Business Theory and Practice ISSN 2372-9759 (Print) ISSN 2329-2644 (Online) Vol. 7, No. 3, 2019, pp. 111-123
- [9] 山本修一郎, デジタル変革に向けたデジタルバランススコアカード DBSC の提案, 信学技法 IEICE TR KBSE2019-41, pp.19-24, 2020.1.25

\* 研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します